

I 事業の概要(地域の実情含む)

- 1 震度6強の地震が発生し、それに伴う校舎内での出火を想定し、所定の場所まで速やかに避難する。
- 2 消火訓練、煙体験等により、危険回避の知識、技術を養う。
- 3 防災に関する技能を高め、災害時に幼稚園児や小学生の避難を支援できる力や態度を育成する。
- 4 沿岸被災地での被災地学習やボランティア体験を通して、生徒個々の「いきる かかわる そなえる」を確認させる。また、その情報を地域に発信することで、震災の風化を防ぐ。

II 取組の概要

1 避難訓練

(1) 盛岡市シェイクアウト訓練

【期 日】9月4日(水)

【参加者】全校生徒・教職員(641名)

【内 容】地震時における自らの身を守るための一斉訓練に参加した。(実施日・9月1日は文化祭のため遅れて実施)

(2) 白梅幼稚園合同火災避難訓練

【期 日】9月2日(月)

【参加者】白梅幼稚園園児・ボランティア希望生徒・教職員(90名)

【内 容】異校種連携の取組として、白梅幼稚園と合同で火災避難訓練を実施した。

【感想等】「安全に避難出来るよう、子どもたちの歩幅に合わせて声を掛けながら移動した。普段は小さい子どもと接する機会は少なく、災害時には慌ててしまうと思うので貴重な体験が出来た」命を守り抜くための行動や共助の精神を涵養することができた。



手をつないで避難誘導

(3) 避難訓練

【期 日】10月1日(火)

【参加者】全校生徒・教職員(641名)

【内 容】地震発生後、出火を想定した避難訓練及び煙体験を実施した。県教育委員会指導主事、モデル地域内の学校担当者に見学いただき、その後、意見交換会を実施した。

【感想等】本校の取組について紹介し、連携校から助言をいただき、各学校の既存の防災教育について情報交換することで、今後の連携について確認できた。



煙体験の様子



避難訓練後の講話

2 救急法講習

(1) 教職員救急法講習会

【期 日】6月13日(木)

【参加者】全教職員

【内 容】教職員を対象にエピペンの取り扱いについての講習会を実施した。

(2) 1学年救急法講習会

【期 日】2月25日(火)～26日(水)

【参加者】1学年全生徒

【内 容】1学年生徒を対象にAEDを用いた救急心肺蘇生法講習会を実施した。



AEDを用いた心肺蘇生法

イ 「花ろうそく」制作

【期 日】10月16日(水)～23日(水)

【参加者】華道部生徒・有志・教職員(21名)

【内 容】華道部が被災地に贈っていた、花型の手作りのろうそくを100個程制作し、陸前高田市に持参した。

【感想等】手書きのメッセージを記した折り紙制作を他学年の生徒も協力し、全校での取り組みができた。



手作りメッセージ



「花ろうそく」制作



3 被災地学習(陸前高田市)

1学年生徒全員で被災地陸前高田市を訪問し、震災学習及びボランティア活動を実施した。訪問に先立って事前学習、訪問後の事後学習及び発表展示を行った。

(1) 事前学習

ア 講演会

【期 日】10月24日(木)

【参加者】1学年全生徒・教職員(215名)

【内 容】東日本大震災当時、現地取材した岩手日報社記者の出前授業を受講した。岩手日報社制作のデジタルアーカイブ「犠牲者の活動記録」で犠牲者の避難行動を視覚的に理解し、被災地の課題や復興の状況を学習した。

【感想等】該当学年は、震災当時幼く記憶が少ない。被害の実態や教訓を学び、自らの命を守るために主体的に行動する態度や安全で安心な社会づくりに貢献する意識の向上を図ることができた。



岩手日報社記者による出前授業(事前学習)

(2) 現地学習

【期 日】10月30日(水)

【参加者】1学年全生徒・引率職員(200名)

【内 容】

ア 震災学習

2019年9月22日にオープンした東日本大震災津波伝承館いわて TSUNAMI メモリアルの施設を見学した。また、隣接する「高田松原津波復興祈念公園」で奇跡の一本松や陸前高田ユースホテルを見学し、当時の津波の大きさや震災の様子を感じ、被災地の現状と復興への理解を深めた。最後に、東日本大震災津波伝承館いわて TSUNAMI メモリアルに華道部と有志で制作した「花ろうそく」を贈呈した。

【感想等】

「復興に向かって整備されているが元に戻るのにはまだ時間がかかることを実際に足を運んで感じた」「高田松原が元の姿になる 50 年後まで、守っていかなければならないと感じた」「災害が起きたときのために普段から避難経路や家族との連絡方法を確認しようと思った」「地域の人とコミュニケーションを普段から取り、協力して素早く避難できるようにしたい」という感想が多く、現地での学習や体験を通して被災地の復興や発展、地域との連携や避難支援の意識がこれまで以上に高まり、自身の社会参画について考えるようになった。



奇跡の一本松・旧陸前高田ユースホステル見学



高田松原津波復興祈念公園見学



東日本大震災津波伝承館いわて TSUNAMI メモリアル
花ろうそく贈呈



東日本大震災津波伝承館いわて TSUNAMI メモリアル見学



東日本大震災津波伝承館いわて TSUNAMI メモリアル見学

イ ボランティア活動

高田松原を守る会の会員の方の案内により防潮堤を見学し、岩手県による高田松原保安林復旧工事計画や守る会の活動内容について伺った。その後、松の苗が植樹された周辺の竹柵抜き等の緑化整備ボランティア活動を実施した。

また、華道部と有志で制作した「花ろうそく」を贈呈した。



高田松原緑化整備



高田松原緑化整備

(3) 事後学習

- 【期 日】11月19日(火)～25日(月)(2回)
- 【参加者】1学年全生徒
- 【内 容】①現地で学んだことを各自でまとめ、級友と情報交換や意見交換をした。
②個々にまとめたものを発表し合い、グループで模造紙にまとめた。

(4) 発表・展示

ア 実践発表

- 【期 日】12月21日(土)
- 【参加者】生徒会役員・希望者(18名)
- 【内 容】地域の魅力発信プロジェクト振り返り研修会
いわて学生ボランティアネットワーク研修会
第1回 GINGA AWARDS2019
(NPO 法人いわて GINGA-NET 主催)
いわての若者が主体となって取り組む地域活動(ボランティア、復興・防災)について共有し、今後の活動につながる仲間作りを行うことをねらいとする発表に参加し、本校のボランティア活動の実践報告をした。
- 【感想等】盛岡二高の発表「つながった思いを大切に ～私たちの活動報告～」は準大賞を受賞した。それぞれの活動から学んだことを高校生の言葉で具体的に発表していること、その学びを今後の活動や生活に生かそうという前向きな姿勢を評価していただいた。高校生にできることが、まだまだたくさんあることに改めて気づくことができ、これからの本校の活動をさらに発展させるためのヒントを得ることもできた。



GINGA AWARDS2019 での発表



イ 展示(本校・2階ラウンジ)

- 【期 日】12月16日(月)～25日(水)
- 【内 容】三者面談中に発表内容を展示した。



グループでまとめたものを展示

Ⅲ 取組の成果と課題

1 成果

防災教育や被災地での学習を通じて、災害の危険に際して、自らの命を守り抜くために「主体的に行動する態度」の育成や、安全で安心な社会づくりに貢献する意識の向上につながった。避難訓練においては、生徒を安全に避難誘導する体制の確立を図るとともに生徒自らが安全に避難しようとする意識の高揚を図ることができた。さらに、白梅幼稚園との合同避難訓練や盛岡市シェイクアウトへの参加を通じて、それぞれの場所で自身を守りながら自らの命だけでなく身の周りの命も守り抜くための行動を身に付けさせることができた。ボランティア体験活動においては、防災や復興に貢献しようとする態度の育成を図ることができた。また、被災地でのボランティア活動を通じて、共助の精神を培うとともに岩手の高校生として何ができるかを一人ひとりに深く考えさせる契機となった。

2 課題

地域防災や復興・発展に関わる人材を育成するために、本事業を通じて生徒が得た学びや社会貢献を果たそうとする意欲を一過性のものとして終わらせることなく、全教職員が防災教育や復興教育の意義や在り方についての共通認識を更に深め、日々の教育活動を通じて継続的かつ組織的に指導を行っていく必要がある。